

区内で活躍されている団体や企業の方々へのヒアリング・ 地域住民との少人数による意見交換会における主な意見

1 区内で活躍されている団体や企業の方々へのヒアリング

令和2年7月から12月に、SDCのあり方や求められる機能等について、区内で活躍されている団体や企業の方々(11団体)とのヒアリングを行いました。主な意見は次のとおりです。

(1) SDCのあり方

- ・ SDCについて、区内を中心に活動している団体(人)の取組の集合体と位置づける。新たに団体や事業を立ち上げるのではなく、既に実施している活動の範囲のなかで、特性を活かしながらつながっていく、そのつながりをSDCとする。
- ・ 市が策定した「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に示されているSDCの機能について、一つの団体に全ての運営を任せるものではなく、機能の一部を様々な団体に運営委託してもよいのでは。
- ・ 区内には「市民活動センター」や「なかはらっば」があるため、SDCの相談機能の一部として、アウトリーチすることもあり得る。
- ・ (SDCに場がある場合)SDCの設えを考える際に、デザインワークショップを開催し、参加者とともにSDCの設えについて検討してみてもは。

(2) SDCに求められる機能

- ・ これから活動を始めたい、立ち上げたい人に対する相談、伴走支援を行う。
- ・ 人と人、人と場をつなぐコミュニティマネージャー(仮称:ソーシャルデザインパーソン)によるマッチング機能。
- ・ (SDCに場がある場合)
夜間・休日等も利用できると良いが、まずは運営者間で分担しながら、可能な範囲で開設していく。モデル事業を試行するなかで、徐々に開設日や対象者を拡大していく。
ふと思ったときに寄れる場所があり、そこへ行けば必要な情報が得られるほか、誰かしらとつながれる場。
- ・ 情報の集約・発信機能。

(3) SDCの検討

- ・ SDCの検討に関するヒアリングに協力いただいたメンバーを中心に、Zoom等のWeb会議でざつぱらんに意見交換するところから始める。
- ・ 庁内及び庁外検討プロジェクトのなかで、SDCの要件定義を進めていく。

2 地域住民との少人数による意見交換会における主な意見

区内で活躍されている団体や企業の方々と、区役所職員との少人数による意見交換会を開催しました。主な意見は次のとおりです。

(1) 第1回 意見交換会

ア 日付 令和2年12月25日(金) 13時から

イ 場所 中原市民館会議室

ウ 主な意見

- ・ SDC において「つながり」を作ることが大切であり、そのために人だまりができる仕組みが必要となる。
- ・ SDC への参加については、あくまでボランティア前提で、自費運営での仕組みを考えなければならない。いずれにしても、まずはやってみることが重要であり、いつでも止められる取組である必要がある。
- ・ オンラインの場だけではなく、リアルな場への参加も大切である。リアルな場を設置する場合、利用しやすいように予約不要な手法が理想。利用時間は対象に合わせて試してみる(子ども関係なら平日の日中など)のはいかがでしょうか。
- ・ オンラインの場を設置する場合、入・退室自由のオンラインサロンのようなものを導入し、オンラインの場をカメラでつなげるなど、SDC と地域のコミュニティスペースをつなげる仕組みはどうか。ただし、地域のコミュニティスペースの運営者にとっても、参加するメリットがあるように。また、人材をオンラインへつなげていく手法については検討が必要。自由参加のオンラインであっても管理者は必要である。
- ・ SDC を活性化させるには、テーマ性を持った会議やイベントで利用者を増やす工夫を行う必要がある。

(2) 第2回 意見交換会

ア 日付 令和3年1月28日(木) 15時から

イ 場所 オンライン開催

ウ 主な意見

(ア)取組の進め方

- ・ SDC への参加について、「ボランティアでの参加を」と大きく打ち出さないほうが良いのでは。金銭的なものでなくても、達成感や繋がりなどで得られるものがあるので、それを打ち出したらどうか。
- ・ SDC を「つながる場」としてだけではなく「実験の場」としてほしい。
- ・ 市民自身がモラルを持って自由に参加できるようにしていくとよい。
- ・ 行政として、できるだけ制約を設けず、新しいことにチャレンジできるようなスタンスでいてほしい。

(イ) オンラインの場

- ・ イベントごとにオンラインの場を設置するだけだと、参加するのは、そのイベントのテーマに興味がある人だけになる。前回話したのは、オンラインで色々なコミュニティの場所を生で配信するだけで、様子が分かって面白いのでは。モニターとカメラがあればできるはず。映っている人とチャットもできるとよいのでは。
- ・ オンラインでは、セキュリティ面を考慮しても登録制(会員制)がよいのでは。
- ・ Zoom ライブで一日カメラの映像を流すのであれば、ありものでできるのでは。イベントや活動の宣伝にも

なる。様々なコミュニティスペースに設置できるのではないか。

- 現在、週一回30～40人くらいでラジオ体操をやっている。パンジー体操を高齢者施設と中継する予定もある。
- 定番なものを番組表のように入れておいて、空いたところにやりたい人が番組的なものを組み込んでもらうのはどうか。オンラインの取組で番組が組めるといい。
- 番組をコーディネートする人は必要。興味ある人はいるはず。
- 生配信イベントを番組表のようにして、広報できたらよいのでは。番組自体の枠も募集する。
- グーグルカレンダーの機能を使えばできるのでは。登録者向けにアカウントを共有し、情報を SNS で発信するなど。
- Facebook などを活用してみてはどうか。